



令和3年5月
横浜市立恩田小学校
TEL(961)7651
FAX(961)6014



1年生は、赤ちゃんかな? ~4月13日 朝会の話より~

校長 ほうらい きしこ
寶來 生志子

入学式翌日の中休み。1年生の教室を覗く上級生の姿がありました。「ちゃんとやっているかな」「休み時間、一緒に遊べるかな」きょうだいや近所の1年生のことが気になり集まってきたようです。1年生のことを思う気持ちに感激しました。それと同時に、1年生の子どもたちの育ち、かかわり方について投げかけたいと思いました。以下は、2年生から6年生の子どもたちに向けて話した放送朝会の話です。



これからも全校で1年生の育ちを支えていきます。

恩田小学校に来て、初めての朝会の話は、「1年生は、赤ちゃんかな?」という話です。みなさん、手を挙げてみてください。「1年生は、赤ちゃんだと思う人」「赤ちゃんではないと思う人」

そうだね。赤ちゃんではないよね。3月までは、「なんでもできる年長さん」として、園のみんなから憧れの存在だった1年生。それなのに、4月になると年齢的に一番下になってしまいます。なんとなく、小さいというイメージになります。「学校のことで分からないことがあったら、教えてあげるね」と上級生は、なんでも教えてあげたくなります。でも、1年生は、園や家庭での遊びや生活を通して、たくさんのことを学んでいるのです。ですから、みなさん、1年生が質問しても、すぐに答えを教えなくてほしいです。

みなさんは、「赤ずきん」という話を知っていますか。おばあさんに化けたオオカミに赤ずきんは聞きます。「おばあさんの耳は何でそんなに大きいの?」オオカミはすぐに答えます。「それはね。おまえの話をよく聞くためだよ」

1年生に聞かれた時、みなさんには、こんなふうに答えてほしいです。「なんで大きいと思う?」そうしたら、1年生は、自分なりに予想するでしょう。自分で考えることがとても大切なのです。そして、分かった時、1年生の口からこういう言葉が聞かれると思います。「やっぱり!」すぐに教えてもらおうのと、予想してから分かるのとは全然違います。

みなさん、1年生への声のかけ方を考えてみてください。